



文学部

火曜日の進路懇談会は参考になっただろうか？ 担当の先生方の個性が「光る」ので、まあそこが楽しみ（苦しみ？）でもあるのだが、ベテランの先生方が、君たちの進路選択の悩みを踏まえて話して下さったはずなので、何かしら得るところがあったはずである。

私は、文学部系の「文学・史学」の教室で12名の諸君を相手にしたが、そもそも文学部というのは、だいたい個人商店みたいなもので、研究にしても、集団で何かをやるといことはあまりなく、こういう集まりを持っても、今一つ「一体感」に欠けるきらいがあるというのは、まあ仕方ないといったところか。とりあえず、どうしてこの教室にいるのか、大まかな進路希望先や大学でやってみたいことを、差し支えない範囲で発表してもらうことから始めたが、日本の近代文学やりたい人、古典文学をやりたい人、日本語の成り立ちみたいなものを研究してみたい人、西洋文学をやりたい人、また、日本古代史をやりたい人、西洋史をやりたい人、心理学と迷っている人…など、いろいろである。就職に向けての意識が比較的高い人（例えば、ゼビ出版社に勤めたいとか、スポーツ系ライターのような仕事をしてみたいとか…）がいる一方で、とりあえず好きなことを勉強してみたいというのが第一で、まだ就職までは考えられてないという人もいた。

というわけで、まったくバラバラの集団だったわけだが、多くの諸君が共通して関心をもっているのは、やはり「文学部に進学すると就職できないのではないか」という漠然としたイメージに関するものだったので、某国立大学の文学部国文科の卒業生が、具体的に

はどのようなところに就職しているのかという資料を見てもらったり、某私立大学の商学部と文学部の就職先を比較するデータを見てもらったりして、「文学部は就職に弱い」というのが、単なる一般のイメージに過ぎないことを納得してもらおうように工夫してみた。

そもそも文学部には女子が多いこともあって、全国一律のデータとなると、他学部比べて正規の就職者が少ない数字が出てきがちだし、大学院に進学したり、公務員になったりする人が多いこともあって、これまた民間への就職だけを取り上げたデータでは弱い印象を与えてしまうことがあるのだが、理由が分かれば他学部と大きな違いがあるわけではなく、民間に関して言えば、メーカーや商社、銀行、生保、マスコミなど、まんべんなくさまざまな分野に就職している実態がある。また、就職に際しては「資格」の有無が問題になるが、もちろん就職を希望する分野に関わる専門的「資格」があるに越したことはないが、以前ほどうるさく言われないうし、むしろ外国語系の資格なら文学部の方が有利という面もあるのである。

というわけで、日比谷生が志望するレベルの大学であるならば、文学部であってもまず就職に関する心配はないと言って良いと思う。しっかり専門分野の知識を身につけ、その過程で新しい「やりたいこと」が見つければ、いくらでもその夢を実現する可能性はあるということだ。

その他、ネットを活用して、自分の行きたい学部・学科がある大学の調べ方などをお伝えした。うまく役立ててほしいものである。